

編 集 後 記

平成29年度もあっという間に大詰めとなり、皆様におかれましては教育・研究並びに臨床活動において多忙な日々をお過ごしのこととお察しいたします。本年度も、北海道医療大学歯学雑誌に論文等の投稿並びにお忙しい中、論文の査読をお引き受けいただきました先生方のご支援ご協力に深く感謝申し上げます。

さて、本号では総説1編、原著論文1編、ミニレビュー1編、実験プロトコル1編及び最近のトピックス2編の投稿をいただきました。巻頭では、微生物学分野の中澤太先生にご自身のライフワークである口腔細菌とバイオフィルム形成機構（*Oral Veillonella*を中心に）に関する総説を投稿していただきました。先生方の長年にわたる研究によって積み重ねられた実験結果は、微生物学研究のおもしろさと広大さを物語っているような気がしました。また、Puja NEOPANE先生（臨床口腔病理学）による抗細菌ペプチド（RNase 7）に関するミニレビューと植原治先生（保健衛生学分野）による次世代シーケンサーを用いた口腔細菌叢の解析法を紹介する実験プロトコルの投稿もあり、今後の口腔病変に対する新たなアプローチの展開を感じることができました。一方、川西克弥先生（咬合再建補綴学分野）の原著論文は、部分床義歯補綴学基礎実習の小テストに導入した統合評価法を応用した形成的評価方法に関する報告であり、本法の教育改善における高い有用性が示されております。さらに、開業医の廣瀬知二先生並びに組織学分野の細矢明宏先生には、臨床と基礎歯学に関する興味深いトピックスを提供していただいております。このように、研究、教育及び臨床までを網羅したバリエーションに富む本巻が整ったのではないかと考えております。是非ご一読ください。

平成29年（2017年）の今年の漢字は「北」でした。その昔、北を冠する北極星は天空の中心に位置する航海の目標として重要だったようです。同じく北を冠する本学もまた、今後の大きな変革を迎える社会情勢の潮流の中で、一つの道標となり得る時代が訪れることを信じております。北海道医療大学歯学雑誌もまた然り。次号（第37巻1号、2018年3月31日締切）以降も歯学雑誌のさらなる充実に努めていきたいと思っておりますので、今後ともご支援ご協力を賜りますようどうかよろしくお願いいたします。（石井 記）

次号（第37巻、第1号）の発行は平成30年6月30日です。

投稿原稿募集の締め切りは平成30年3月31日必着と致します。期日厳守の上、ご投稿をお願いします。本誌投稿規定は、2017年第36巻、第2号の巻末をご参照ください。